



愛光NEWS

2020年8月

2020（令和2）年9月10日発行

（編集）愛光本部総務部

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

愛光NEWSは、2か月ぶりの発行になります。愛光ホームページでお知らせしましたが、先月は、法人内で新型コロナウイルス感染症の発生が判明し、発行時期を逸してしまいました。お詫びいたします。コロナとの闘いは減少傾向にはありますが、安心はできません。一人一人が注意しても、いつどこで感染するかわかりません。そんな中での法人内事業所での発生でした。詳細は紙面にて紹介します。

一方、残暑が厳しい中、九州方面には続けて台風が襲来。大きな被害は回避されましたが、昨秋の千葉県を襲った台風の記憶がよみがえりました。改めて防災への備えを考えさせられます。

□事業経過など（2020.8.1～）

月/日(曜)	記 事
8 / 1(土)	関東甲信地方梅雨明け
1(土)	介護マイスター研修（本部第1会議室）
3(月)	辞令交付
5(水)	業務執行理事会（役員室）/地域共生プロジェクト
6(木)	メンター委員会（本部第2会議室）/後援会監事監査（7・役員室）
6(木)	気象庁が関東甲信地方に「熱中症アラート」発令/広島原爆忌
8(土)	新型コロナお盆帰省に各自治体が注意喚起
9(日)	長崎原爆忌
10(月)	山の日
11(火)	感染症・衛生委員会（本部第2会議室）/障害施設健康診断
12(水)	サービス責任者会議・みらいプロジェクト
15(土)	終戦記念日
17(月)	愛光感染症対策本部会議（感染者判明）
17(月)	静岡県浜松市で歴代最高気温に並ぶ（41.1度）
18(火)	めいわ入所、通所利用者・職員PCR検査実施（142名）
18(火)	根郷通所センター休所（～9/1）
19(火)	愛光感染症対策本部会議（第2回）
20(木)	広報委員会（本部ボランティア室）
21(金)	ボランティア委員会（本部ボランティア室）
24(金)	安倍首相在任期間歴代最高に
26(水)	施設長会議/中期経営計画研修（本部第1会議室）
27(木)	業務執行理事会
28(金)	安倍首相辞任表明
9/2(水)	根郷通所センター事業再開

□これからの予定

9/26(土) 理事会

■おもな出来事

□根郷通所センターで感染者発生

その知らせは、夏期休暇明けの8月17日(月)朝、利用者Aさん家族からの電話が始まりでした。内容は、Aさんが8月12日に自宅で発熱(37.8℃)し、15日に熱が下がらないため通院、PCR検査を受け、本日保健所から検査結果が報告されますと。不安を抱えながら待っていると、午後3時半過ぎ母親より「陽性でした」と連絡が入り、事業所、法人内に衝撃が走りました。根郷通所センターは、8月9日から16日まで夏期休暇中でしたが、11日(火)だけ健康診断のため登所していました。健康診断は、市内の医療機関に委託しめいわ入所部と合同で実施していました。

続いて印旛健康福祉センター(保健所)より、連絡が入り陽性者の11日の行動について接触者リストや建物内の見取り図、室内の換気の状態などメールを使っての確認作業が始まりました。最終的にPCR検査を根郷通所センター利用者、職員、そしてめいわ利用者、職員の全員を受診することが決定されたのは、午後9時を回っていました。

並行して、法人では愛光感染症対策本部を設置し、対応を協議しました。以下に終息までの経過を報告します。

8月11日(火) 利用者(Aさん)登所。健康診断(市内医療機関に委託)受診。

8月12日(水) Aさん自宅にて熱発(37.8℃)

8月15日(土) 熱下がらず通院PCR検査受診。

8月17日(月) 陽性が判明。

愛光感染症対策本部設置。根郷通所センターは8/18~9/1まで休所。

障害者事業部日中活動活動等中止。

8月18日(火) 根郷通所センター、めいわ利用者、職員等濃厚接触者を含む計142名PCR検査受診。根郷通所センター、めいわ建物内を消毒実施。

8月19日(水) 根郷通所センター(Bさん)より陽性が判明。Bさんの行動確認で17日に登所した新たな濃厚接触者の利用者が3名認定される。

その他の利用者、職員は全員陰性。

めいわ入所施設等は、普段通りに活動を再開してよいと指示ある。

8月20日(木) 濃厚接触者3名のPCR検査受診。

8月21日(金) 濃厚接触者3名は陰性。

(この間、根郷通所センターの利用者、職員の健康観察実施、特に異常なし。8/28、29には入院していたAさんBさんが退院)

9月2日(水) 根郷通所センター事業再開。今回の感染症は終息。

□第Ⅳ期中期経営計画策定プロジェクト始動

新型コロナウイルスの関係で開始が遅れていた「第Ⅳ期中期経営計画」策定プロジェクトが7月29日(水)より始動しました。このプロジェクトは外部のコンサルティングを導入して施設の管理者と一緒に作成するものです。今後の工程は、①外部環境の調査 ②内部資源の整理 ③戦略の検討 ④目標の設定 ⑤計画の立案 というステップを踏んで進められます。地域の現状やニーズ、環境変化等を自らが調査し分析を行い、2021年から始まる経営計画に反映させ、地域に根差したサービスの提供を実現しようというものです。管理者自らが率先して計画策定に携わるので、より行動に移せる実のある計画に期待が持てます。

■月報から

□コロナ禍での実習受け入れ（福祉相談室）

福祉系大学や介護専門学校など、新型コロナウイルスの影響で4月からの授業がままならず、どの学校もオンラインによるカリキュラムを進めていた。6月末頃から実習受け入れの相談が殺到した。「当初予定していた実習先から受け入れを断られてしまった。ぜひ愛光でお願いできないか」という依頼である。どの学校も切実で、中には施設での実習日数が限定された学校もあり、生徒によっては実習日程が規定数に届かない学生も発生しているとか。そこで、受け入れ対策として、「実習における感染予防ハンドブック」と「健康カード」を作成配布し、学生への感染予防の周知をお願いした。そうしたところ、7月以降、総数14名（5校）の受け入れを開始した。

しかし、8月17日に根郷通所センターの利用者が感染したとの情報が入り、対策本部の指示のもと、各学校に報告。一定期間の実習中止をお願いした。根郷通所センターでの実習生もPCR検査を受けられる配慮をしてくれたため、実習生本人とその家族、学校へもご理解いただくことができた。

今回の件は、どの学校も口をそろえて「こんなご時世に実習を受けていただいているだけでも感謝しかない」とねぎらいの言葉をいただいた。しかし、心配した様子もあり、実習再開の目的が立った際に連絡すると、ほっとされる様子もうかがえた。

本来、実習生の受け入れは、福祉を志す学生が福祉現場で学びを深めると同時に、将来の福祉現場を支える人材を育てる意味合いがある。コロナウイルス感染症で緊張を強いられる中、「実習生は受け入れない」と反対する意見が出てもおかしくない状況でも、温かく受け入れを続けてくれる現場に、今後も感謝していきたい。（福祉相談室相談員 林 拓也）

□伝える情報はリアルタイムで（めいわ）

18日（火）利用者と職員のPCR検査を実施。今年に入って、毎月のおおぼの会（利用者自治会）では、利用者に「新型コロナウイルス」について説明をしてきた。今流行っているコロナウイルスはどんな症状なのか、めいわ内で流行らないためにはどうすれば良いか等数か月続けて説明した。6月からは、めいわ内で感染者が出た場合は、どうなるのかの説明を行った。簡単にわかりやすい説明のつもりではあるが、何しろ新しい言葉であるため、理解までは難しい部分が多々ある。少しの緊張感につながればよいかとも考える。

お盆休みが16日（日）までで、17日から日中活動が再開した。しかし、その日の夕方から状況が急に慌ただしくなり、何度も利用者に密を避けるための協力を願う内容の放送を流した。協力の願いをしたものの、本当に協力してくれるのかなど不安ではあったが、その心配は少ないほど利用者の協力は素晴らしかった。（めいわ課長 李 連淑）

□濃厚接触者には濃厚接触者で（山王の家）

17日の根郷通所センターでの新型コロナ発生に伴い、山王の家から根郷通所へ通う6名のうち3名の利用者が濃厚接触者となった。保健所の指導により翌18日から山王の家を濃厚接触者隔離施設とし、濃厚接触者だけの利用とし家族に協力を仰いで帰省できる方は自宅で過ごしてもらった。帰省できない1名の利用者は、リホープのショートステイを利用した。日中夜間の支援は、保健所と相談して根郷通所センターでの濃厚接触者である職員が対応にあたった。

（山王の家サービス責任者 高梨 和憲）

□コロナ差別?! (南部児童センター)

近隣の児童館の職員がコロナに罹患し、しばらくの間「臨時休館」。そのあおりか、8月前半は来館者が激減した。その後、徐々に他地区からの来館者が増え始めた。「今まで行っていた児童館でコロナが出たから、絶対行きたくないんです。」という生々しい声も聞こえてきた。同伴の幼児は、入館するなり「わー!つまんなさそう」の一声。南部児童センターは何よりも「安全を第一」に、市内在住者のみを受け入れて、遊具の貸し出しも数を絞り慎重に進めている。

市内の感染者数はまだ落ち着かず、誰が感染してもおかしくない状況にある。来館者がウイルスを持ち込む可能性もあるにもかかわらず、「コロナ差別」ともとれる言動に心が痛んだ。

(南部児童センターインストラクター 鈴木 信子)

□特別な夏 (学童保育所)

「コロナ」「マスク」「手洗い」「除菌」「三密」「熱中症」「アラート」・・・流行語大賞にもなりそうなワードが飛び交う昨今。そして、短い短～い夏休み。

できる限りの感染防止策をとり、できる範囲で思いつく限り活動した。「〇〇しかできない」のではなく「(制限下で) どう楽しむか?」を考えた。子どもたちのひらめきをもとに大人が支援し、子どもたちまで取り巻く様々なわずらわしさやつまらなさをなるべく感じさせないように努めた。子どもたちのエネルギーだけは、いつもの夏と変わらない。

昨年同様、夏休み中の12時間運営による職員の人手不足は、シルバー人材センターからの補充を行った。以前、学童に来てくださった方をこちらから要望し、それがかなったケースが多く、日常や子どもたちに慣れた様子で、大きな力になっていただいた。

子どもたちも職員も、シルバー人材の方も、大きく体調を崩すことなく過ごせ、ほっと一安心である。

(学童保育所主任 齋藤 理江)

□1日平均5.6名 (南部地域福祉センター)

浴室の利用が再開され、少しずつ来館者が増えている。入浴利用を予約優先、50分間の時間制にしたことで、利用がすくなるのではないかと、時間を守れないのではないかと、という懸念もあった。初めてみると、今まで1時間以上利用していた方も、時間を守っている。また、市内の別の浴室を利用していた方が、「行ってから待つのが嫌だから」との理由で南部地域福祉センターを利用される方もいる。1日平均5.6名利用しており、昨年の同月が6.7名と考えれば体制が変わったことでの混乱はないと考える。しばらくはこの体制での運営が続くと考え、より多くの方に安心して利用していただきたい。

(南部地域福祉センター所長 横川 民夫)

■職員状況 (8/31現在)

	人数	前月比
正職員	174	-1
サポート職員	42	
非常勤職員	141	+1
計	357	±0